

# 接戦度合いが投票参加に影響を与えるか\*

1220499 辻信

指導教員 林良平

## 研究背景

自分の持つ1票がどの選挙区においても同じ価値を持つことは非常に重要である。2021年に実施された衆議院総選挙において、選挙区間の最大人口較差は2.08ポイントを記録した。そこから着想を得て、自分の一票が選挙結果を変える確率が投票参加に影響を及ぼすのかについて検証した。

## 研究目的

自分の1票の影響力の大きさと投票参加の関係を明らかにすることを目的として分析を行う。

## 研究方法

全ての分析において、選挙区の差異が分析結果に与える影響を除去するために固定効果モデルを用いる。また、本稿で挙げた4つ全ての仮説を検証する際、有意水準5%の下でt検定を行う。

## 分析結果

今回選挙の接戦度合いと投票参加度変化は正の関係にある。前回選挙からの接戦度合いの変化と投票参加度変化は正の関係にある。接戦度合いの変化率と投票参加度変化率は正の関係にある。

## 結論

各選挙区の接戦度合いと投票参加の度合いの間には正の関係が観察された。このような結果が得られた原因として、接戦度合いが投票参加の度合いに影響を与えた可能性、投票参加の度合いが接戦度合いに影響を与えた可能性、メディアが交絡変数として接戦度合いと投票参加の度合いの双方に影響を与えた可能性を挙げた。

---

\* 本論文の作成に際して指導教官の林良平先生からは多くの助言を賜り、感謝しております。